

古文書を読む会学習記録

作成日 平成27年 6月30日

開催日	平成27年 6月25日	時 間	10:00～12:00
場 所	金沢公会堂	出席人数	14名
講 師	真田 雅行氏	作成者	沓掛 勝利
テーマ	第二学習 ジョン万次郎帰朝記事⑥		
概 要	<p>鹿児島から長崎・土佐に送られ両所で御詮議を受けた後故郷で母に再会する迄。</p> <p>9月17日鹿児島を出発、山道歩行、川船にて京泊に着、御侍・御役人方を含め計19人が船2艘に分乗、24日京泊を出帆、29日長崎表に着船。</p> <p>11月1日上陸、長崎奉行に引渡され、公儀御役人改めの上、踏絵をさせられる。御役人屋敷の御白洲に於いて、22日までに計18回の御詮議を受けた。桜町牢屋囲の内に入れられたが、名目のみで、外出は出来なかったが、囲い内の往来および入浴も許された。</p> <p>万次郎所持の品の内、測量の具・横文字書籍他6品およびウワフ国から持参の鯨・船具は長崎表にて召し上げられ、綿入・手拭他6品を遣わされた。</p> <p>子(1852年)6月、国許から受取の役人・地下役が長崎表に到着、23日御役屋敷に於いて、御国方御役人へ引き渡され、新橋の御用達西川三次郎宅に入る。</p> <p>6月25日長崎表出発、道中海陸滞りなく、7月11日高知御城下へ帰着、東堺町松尾屋に留置かれる。御目付方での御詮議が済むまで諸人応接を禁じられ、宇佐浦組頭雄太郎と中の浜浦地下役共が始終詰めていた。9月28日までに緒御用相済み、両浦庄屋へも相済まし、10月5日中の浜浦へ帰着する。</p> <p>万次郎は先ず庄屋に連れてゆかれ、母兄弟を呼びに遣わされている間に、話を聞きつけた在所中の者共が次々に押しかけ、瞬く間に庄屋の前は門前市となる。</p> <p>その中に、母が茫然として万次郎の顔を眺めているところに、万次郎が「只今こそ帰り来たれり、先々御機嫌にて目出度し」と云えば、「扱は万次郎か」と駆け寄り抱き付いて暫く涙に咽んでいたが、庄屋の前に来て「どうも万次郎では無い様だ」と云う。庄屋は、万次郎に相違ない、長い間会ってないので、顔を見忘れたのであろうが、日を経るに従い、いよいよ我子だと思い、夢から覚めた心地して、次第に際限なく歓喜雀躍となろう、と話す。</p> <p>その外</p> <p>「難船人帰朝紀事」として、アメリカの諸事情に付いて、万次郎が解説した談話を集録した書を学んだが、内容は省略する。</p>		
次回予定	平成27年 7月 9日 10:00～12:00	於:金沢公会堂	
	第一学習 永嶋家文書⑦		